

## 夏休み！将来・進路をじっくり考える機会に！

障がいのある人を取り巻く環境の変化が激しい時代になっています。障がい者雇用率のアップ、最低賃金の大幅な引き上げ、B型施設の工賃アップの取り組み等、前向きな変化が見られます。一方、いろいろな事件や問題も起こっています。例えば、障がい者施設での虐待、障がい者同士の結婚時の避妊手術問題・結婚後のグループホーム退去強要、入所施設の縮小に伴う待機者の増加、グループホームの不足、雇用代行ビジネスの横行、福祉制度改正によるA型施設の閉鎖等、光と影のように問題も複雑化しているように感じます。

夏休みに入り、子ども達は一段落といった感じかもしれません。この機会に、進路や将来の希望と本人の現状(できること、課題等)を、家族で少しだけ考えてみる機会にしていだければ幸いです。

### 就労準備性ピラミッド+α



心と体の健康や生活リズムから職業適性まで、下から順番にというよりは図の下項目が安定し、できることが増えていくことで、自分にあった職業を幅広く考えられていくことにつながります。ピラミッドの周りには、日々、進路担当として大切だと実感していることを加えてみました。

まず素直さ。そして、笑顔、挨拶、明るさ等が無いと、仕事ができても認めてもらえない状況に陥ります。また、黄色の部分、就職を目指す生徒には絶対に必要だと思っています。

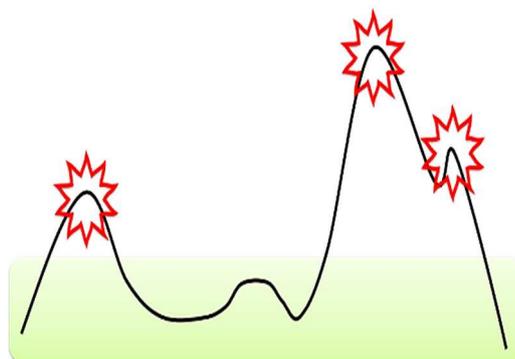
これら(赤字と黄色部分)は学校でというより、普段の生活、人との関わり、近所への外出や買い物、手伝い等の経験の積み重ねから育まれるものです。生活のために稼ぎたいと思うから、少しぐらいキツくとも頑張れたり、仕事が続いたりするのだと思います(レジリエンス力=困難を自分なりに乗り越え回復する力)。

### “できる/できない”の判断は？

学校や家庭では、赤の部分で“できた！”と評価しています。しかし、実習時や卒業後は、普段(下の緑の部分)できるのかどうかで評価される(採用、不採用が決まる)場面が増えていきます。

(今はできてないけど)本当はできるよね…ではなく、いつも“できる”、どこでも“できる”、誰とでも“できる”…ように、段階を踏んで取り組んでみましょう。何か1つ、簡単なことでOKです。“いつもどおりは楽”ですが、本人の成長を信じて、何か1つ、親子でチャレンジしてみましょう(^^) /

そして、本人の少しの変化を、しっかり、大げさにほめ(認める)ましょう。もちろん高等部でも！



大人が準備し活動させる → 一緒に準備してやる → 一人でやらせ近くで見守る → 離れて見守り報告させる → 一人でやらせ、後で報告させる → 本人に任せて時々確認する → 完全に一人でやらせる 等 …